

2023 年度

ガバナンス・コード
点検結果

上智大学

各「基本原則」及び「遵守原則」の遵守状況の説明

基本原則「1. 自律性の確保」	
<p>会員法人は、私立大学としての多様な教育研究活動を実現するため、それぞれの寄附行為、建学の精神等の基本理念に沿って、自主性、独立性を確保すると同時に、自律的に学校法人を運営する必要がある。</p>	
遵守状況	遵守
遵守原則の遵守方法に係る説明	
遵守原則 1-1 教育研究目的の明確化、理解の獲得	
<p>会員法人は、学生、保護者、卒業生のみならず、広く社会に存在するステークホルダーに対し、教育研究目的を明確に示し、理解を得る必要がある。</p>	
遵守状況	遵守
エクस्पラインの種類	コードの記載通りの方策により遵守している
遵守原則の遵守方法に係る説明	<p>大学の目指す方向性や重点取り組み事項の整理を行い、2023年度に新たな8年単位の中長期計画「グランド・レイアウト3.0」として取りまとめて公表を行った。この中で教育研究ならびに社会貢献の目的や行動計画を明確にした。</p>

項目	状況	コメント
○重点事項 1-1		
<p>会員法人は、事業に関する中長期的な計画もしくは事業計画等（以下「中期計画等」という）の策定を通じて、さらなるガバナンス機能の向上を目指し続ける。</p>	コード通り実施	
●実施項目 1-1		
① 中期計画等の策定に当たり、教学関連及び経営関連項目ごとに素案の策定主体、計画期間、意見聴取方法及び意見の反映方法をあらかじめ決定する。	コード通り実施	
② 中期計画等の策定に際し、直前の中期計画等及び他の計画との関連性を明らかにする。	コード通り実施	2023年度から稼働した中期計画（グランド・レイアウト3.0）の公開にあたっては、2022年度までの計画の達成・進捗状況を明示し、公式ウェブサイトにて公開を行っている。
③ 中期計画等に教学、人事、施設及び財務等に関する事項を盛り込む。	コード通り実施	
④ 中期計画等において、理事長をはじめ政策を策定、管理する人材の育成、登用の方針を盛り込む。	コード通り実施	

⑤ 中期計画等の内容について、その適法性、倫理性を考慮するとともに、顕在的リスクのみならず潜在的リスクについても識別、評価する。	コード通り実施	
⑥ 中期計画等の策定に際し、財政面の担保が不可欠であることを踏まえ、現実的かつ具体的な資金計画、収支計画を精緻化する。	コード通り実施	
⑦ 中期計画等において、実施スケジュールを含む具体のアクションプランを明確にする。	コード通り実施	
⑧ 中期計画等に係る策定管理者（政策管理者）と執行管理者を明確にする。	コード通り実施	
⑨ 中期計画等の最終決定は、十分な説明、資料に基づき、評議員会等の意見を聴取したうえで、会議体等の合議により行う。	コード通り実施	
⑩ 中期計画等において、測定可能な指標や基準に基づく達成目標、行動目標を提示し、適宜、データやエビデンスに基づいて中期計画等の進捗管理を行う。	コード通り実施	
⑪ 中期計画等の内容、進捗管理方法について、教職員を中心とする構成員に十分に説明し、理解の深化を図る。	コード通り実施	
⑫ 外部環境の変化等により、中期計画等の変更が必要となった場合、速やかに修正を行える体制を構築する。	コード通り実施	
⑬ 中期計画等の期間中及び期間終了後に、進捗状況及び実施結果を法人内外に公表する。	コード通り実施	

基本原則「2. 公共性の確保」	
中期計画等の期間中及び期間終了後に、進捗状況及び実施結果を法人内外に公表する。	
遵守状況	遵守
遵守原則の遵守方法に係る説明	
遵守原則 2-1 有益な人材の育成	
会員法人は、建学の精神等に基づく多様な人材育成像を保持しつつ、時代や社会の変化を踏まえながら、教育研究活動を通じて、広く社会に、また地域にとって有益な人材を育成する。	
遵守状況	遵守
エクस्पラインの種類	コードの記載通りの方策により遵守している
遵守原則の遵守方法に係る説明	<p>各種方針に基づいて教学の PDCA（企画→実施→点検・評価→改善）サイクルを適切に稼働させる内部質保証システムを整備し、企画→実施→点検・評価→改善と、教育研究活動の質保証向上に取り組んでいる。2023 年度は大学基準協会による認証評価で適合を受けた。</p> <p>また、特に社会人の受け入れを意識した「応用データサイエンス学位プログラム（修士課程）」を 2023 年度に設置し、リカレント・リスキリングの修士レベルでの実践を開始した。多数の志願者を集め、7 割以上が社会人学生という構成で始動した。</p>
遵守原則 2-2 社会への貢献	
会員法人は、社会の要請を踏まえつつ、特色ある教育研究活動から得られた成果を踏まえ、社会の要請の変化に対応して、現実の諸課題に対する解決方法を示し、社会に貢献する。	
遵守状況	遵守
エクस्पラインの種類	コードの記載通りの方策により遵守している
遵守原則の遵守方法に係る説明	<p>〈中長期計画「グランド・レイアウト 3.0」において、社会貢献・社会連携を積極的に行う方針を示し、自治体、産業界、国際機関等との多様な取組を進めた。本学主催のシンポジウムのみならず、官公庁、国際機関、他研究機関などとの連携イベントによる研究成果の発信機会においても、高校生、社会人にも広く参加を呼びかけるなどして、教育研究活動の成果の還元に取り組んでいる。</p> <p>社会連携および社会貢献活動に関する方針を明確にするために「社会連携及び社会貢献に関する方針」を定めており、これに基づいて取組の点検・評価・改善を進めている。</p> <p>また、新たな社会貢献の形として後期講座「地球市民講座」開設の準備を完了することができた。（開講は 2024 年度からとなる）</p>

項目	状況	コメント
○重点事項 2-1		
会員法人は、それぞれの会員法人が目指す人材育成（大学教育）を行うために、教育の質の向上や学修成果の可視化等による教育の高度化に努め、不断の改善サイクルにより教育研究活動を向上させる。	コード通り実施	
●実施項目 2-1		
① 学校法人及び当該学校法人が設置する大学等のミッション、ビジョンを踏まえ、学校法人及び大学、学部・学科、研究科等の毎会計年度ごとの事業計画（以下「事業計画」という）、達成目標や具体的な行動指針を明確にする。	コード通り実施	
② 達成目標、具体的な行動指針を教職員、学生及び社会に発信し、共有する。	コード通り実施	
③ 学校法人の中期計画等、学部・学科、研究科等の達成目標を実現するための経営資源（ヒト、モノ、カネ）が、効率的な配分となり、著しく非効率的なものとならないよう、経営資源の配分に係る基本方針を明確にする。	コード通り実施	
④ 「学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」とカリキュラムとの整合性のチェック等を通じて、それぞれの方針の実質化を図る。	コード通り実施	
⑤ 「入学者受入れ方針」と入学者選抜との整合性のチェック等を通じて、同方針の実質化を図る。	コード通り実施	
⑥ 自己点検・評価結果、認証評価機関による評価結果やアンケート調査等を含むIR（インスティテューショナル・リサーチ）活動の成果を活用し、教育活動の改善を行う。	コード通り実施	2023年度は大学基準協会による機関別認証評価において「適合」を得ることができた。
⑦ リカレント教育の諸施策について、その方針、計画を明確化する。	コード通り実施	
⑧ 留学生の受入並びに派遣に係る諸施策について、受入留学生の選抜方法、日本語教育プログラムの充実や日本人学生とともに学ぶ機会の創出、派遣留学生の教育課程編成・実施の方針、受入留学生の教育環境整備状況等の観点から、アカデミックな意義付けを明確にする。	コード通り実施	派遣・受入学生ともに、事前の案内やガイダンスを通してアカデミックな情報を周知している。また、日本語教育プログラムについても留学生のレベルに応じた多様なクラスを提供しており、日本人学生とともに学べる英語の科目の提供も行っている。

○重点事項 2-2

会員法人は、市民講座・ボランティア活動・地域課題解決等の地域連携プログラムを通じ、大学が社会・地域と連携し、その発展に貢献していく活動を積極的に行う環境を整える。

コード通り実施

2024年度に公開講座（上智地球市民講座）をリニューアルスタートさせ、地域住民に対する学びの場を開放し、発展基調にある。地域との連携プログラムについては、体制として不確定要素はあるものの、2023年度に奄美大島/宇検村・伊藤忠商事・JALと環境保全・地域振興に関する産学官連携協定を締結し、マングローブ植樹のエコ・スタディーツアーを継続していく方針。（2024年度以降、SFDP推進室が所管予定）

その他、学生センターが所管している北海道八雲町や福島県飯館村等における教育プログラムやボランティア活動や、ソフィア連携室が所管している、足利市（足利学校アカデミー）や千代田区（さくらセミナー）との連携講座等も運営している。

●実施項目 2-2

① 社会・地域貢献に係る学内方針を検討し、策定する。

コード通り実施

② 社会・地域との連携を支援する体制または仕組みを整備する。

コード通り実施

③ 組織的な各種ボランティア活動を展開するために必要となる社会連携・地域貢献等に関する諸規程を整備する。

コード通り実施

④ 公開講座や地域の課題解決に向けた地域連携プログラム等を開設する。

コード通り実施

⑤ 社会・地域貢献に係る学内の自主的な取り組みを把握し、全学的な取り組みとして展開する。

コード通り実施

⑥ 自治体等の行政機関や企業との対話、信頼関係の醸成に努める。

コード通り実施

基本原則「3. 信頼性・透明性の確保」

会員法人は、私立大学の有する公共性に鑑み、健全な大学運営について、学生、保護者、教職員のみならず広く社会からの信頼を得られるよう、説明責任を果たすとともに、透明性の確保に努める必要がある。

遵守状況

遵守

遵守原則の遵守方法に係る説明

遵守原則3-1 法令の遵守、社会貢献

会員法人は、社会からの理解と信頼を確保するために、常に法令を遵守するとともに、多くのステークホルダーとの良好な関係の構築を目指し、教育研究活動を通じ社会に貢献する。

遵守状況

遵守

エクस्पラインの種類

一部もしくは全ての重点事項について、別の方策によって達成できている

遵守原則の遵守方法に係る説明

関連規程に基づき、監事による監事監査、監査室職員と特別監査人による内部監査を適切に実施しており、報告書・調書・チェックリスト等も同様に作成している。監査結果に基づく指摘事項については、当該部署による改善策の策定、さらにその監事／監査室による進捗状況をチェックするサイクルを確立している。監事は上記に加えて、理事会・評議員会以外の重要会議にも積極的に出席し、業務執行上懸念がある場合は都度意見書を担当理事に送付するなど、基本原則に掲げる「信頼性・透明性の確保」につとめている。

遵守原則3-2 理事会による執行、監督機能の実質化、不正防止制度整備

会員法人は、社会からの信頼を損なうことがないように、理事及び評議員、学長（総長を含む）（以下、「役職者」という）の選解任過程等に関する透明性の確保を通じて、理事会による理事の職務の執行監督機能の実質化を図るとともに、大学で起こり得る利益相反、研究活動に関わる不正行為等について、その防止のために必要とされる制度整備を行い、実行する。

遵守状況

遵守

エクस्पラインの種類

一部もしくは全ての重点事項について、別の方策によって達成できている

遵守原則の遵守方法に係る説明

理事に関しては「寄附行為施行規則」で各理事の役割および理事会での決定事項を定めているほか、「決裁権限規程」により項目ごとに決裁者・決裁会議体の明確化を図っている。

リスクマネジメントに関しても、規程整備とそれに基づいた組織的に重要なリスクの選定及びその対策実施や、クライシス対応を行う仕組みを整えている。

2025年度に施行される私立学校法改正に基づく新寄附行為案の作成を2023年度から着手しており、理事選任機関の設置などについて、精度の高い制度となるよう設計を進めている。

遵守原則 3-3 積極的な情報公開

会員法人は、自らが行う教育研究活動に係る情報や、それを支える経営に係る情報について広く社会から理解を得るため、様々な機会を通じて、積極的に情報を公開する。

遵守状況	遵守
エクस्पラインの種類	一部もしくは全ての重点事項について、別の方策によって達成できている
遵守原則の遵守方法に係る説明	法令上の項目に限らず、教育・研究などに関する多様な取組や活動、IR 推進室による調査・分析結果等について、各種報告書や大学公式ホームページだけでなく、各 SNS も活用し積極的に公開している。事業報告書の英訳など、経営情報についても英語による発信を強化しており、国内外を意識した情報発信の推進を目指している。

項目	状況	コメント
○重点事項 3-1		
会員法人は、会員法人におけるガバナンスを担保する理事会による理事の職務の執行監督機能の向上、監査機能の向上及び監事機能の実質化のため、監事選任方法の工夫・改善、支援体制の整備等を図る。	コード通り実施	
●実施項目 3-1		
① 『監事監査ガイドライン（私大連監事会議）』を参考に、監事監査規程（必要に応じて監事監査基準）を策定する。	コード通り実施	
② 監事が作成する監事監査計画、監事監査調書、監事監査報告書その他の監事監査資料を有効に活用し、監事監査の実効性を高める。	コード通り実施	
③ 常勤・常任監事の登用、または常勤・常任監事がいる状況と同様の監事監査が実施できるような監事監査支援体制を整備する。	コード通り実施	
④ 監事が評議員会、理事会において、積極的に意見を陳述することができる仕組みを構築する。また、経営に関する重要な会議等についても出席し、積極的に意見を陳述することができる仕組みを構築する。	コード通り実施	
⑤ 監事監査に必要な資料の提供、説明等、十分な情報提供を行う。	コード通り実施	
⑥ 監事間の連携の深化を図るべく、必要に応じて監事会を開催する。	コード通り実施	

⑦ 会計監査人の選任においては、監事の意見を踏まえて行う。	コード通り実施	2024 年度～2028 年度の会計監査を行う監査法人の選定を 2023 年度中に行ったが、選定の過程において、都度監事に報告し、意見を仰いでいた。 また、当該議題を扱う会議体には、監事がオブザーバー出席しており、意見を述べるができるようになってきている。
⑧ 監事と会計監査人、内部監査室等とが協議する場を設定する。	コード通り実施	
⑨ 監事に対する研修機会を提供し、その充実を図る。	コード通り実施	
⑩ 監事の独立性を確保するために、その専門性を考慮しつつ、監事選任基準の明確化または監事指名委員会を設置するなどの方法によって、監事を選任する。	別の方策で実施	監事指名委員会の設置は無いが、現行の寄附行為に則り、所掌範囲を漏れなく分担できるよう専門性を考慮しつつ選任している。
⑪ 監事監査の継続性を担保し、かつ監事の独立性を確保すべく、監事の選任時期及び任期について留意する。	コード通り実施	
○重点事項 3-2		
会員法人は、ガバナンスを担保する内部チェック機能を高めるため、有効な内部統制体制の確立を図る。	別の方策で実施	内部統制を支える基本的な要素はほぼできている。今年度中にさらに体系化し体制を確立する予定である。
●実施項目 3-2		
① 法令等の遵守に係る基本方針・行動基準を定め、事業活動等に関連した重要法令の内容を役職者及び教職員に周知徹底する。	コード通り実施	
② 役職者の選解任過程の開示、役職者の報酬の決定方法の開示、一定額以上の報酬を得ている役職者の報酬の開示等によって、透明化を図る。	別の方策で実施	大学長の選任過程については概要を開示しており、その他の役職者についても、寄附行為に定められた選任方法に則り選解任を行っている。また役員報酬規程はサイト上に公開している。2025 年（令和 7 年）私立学校法改正に伴って変更する新しい寄附行為では、理事選任機関の設置を予定している。
③ 法令等遵守体制の実効性に重要な影響を及ぼし得る事項について、理事会及び監事に対して定期的に報告がなされる体制を整備する。	コード通り実施	

④ 学校法人に著しい損害を及ぼすおそれのある事象への対応について、理事会その他の重要な会議等において、十分な情報を踏まえたリスク分析を経た議論を展開する。	コード通り実施	
⑤ 理事等が、事業内容ごとに情報を管理保存する体制を通じて、信用・ブランドの毀損その他のリスクを認識し、当該リスクの発生可能性及びリスク発生時の損害の大きさを適正に評価する。	コード通り実施	
⑥ 不正または誤謬等の行為が発生するリスクを減らすために、各担当者の権限及び職責を明確にするなど、各担当者が権限及び職責の範囲において適切かつ効率的に職務を遂行していく体制を整備する。その際、職務を複数の者の間で適切に分担または分離させることに留意する。	コード通り実施	
⑦ 職務を特定の者に一身専属的に属させることにより、組織としての継続的な対応が困難となる、あるいは不正または誤謬等が発生するといった事態が生じないように、権限及び職責の分担や職務分掌を明確に定める。	コード通り実施	
⑧ 内部監査室あるいはこれに相当する業務を担当する部署等（以下、内部監査室等）を設置するなど、内部チェック機能を高める。	コード通り実施	
⑨ 内部監査基準または内部監査ガイドライン等の内部監査に関する諸規程を整備し、内部統制体制を確立する。	コード通り実施	
⑩ 相互牽制機能が働く有効な体制を整備し、監事、会計監査人及び内部監査室等による三様監査体制を確立する。	コード通り実施	
⑪ 学校法人の財務状況に重要な影響を及ぼし得る事項について、財務担当理事と会計監査人との間で適切に情報を共有する。	コード通り実施	
⑫ 理事会その他の重要な会議等における意思決定及び個別の職務執行において、法務担当及び外部専門家に対して法令等遵守に関する事項を適時かつ適切に相談する体制を構築するなど、法令等を遵守した意思決定及び職務執行がなされることを確保する体制を整備する。	コード通り実施	

<p>⑬ 教職員等が違法または不適切な行為、情報開示内容に関し真摯な疑念を伝えることができるよう、また伝えられた情報や疑念が客観的に検証され適切に活用されるよう、(内閣府告示第118号「公益通報者保護法第11条第1項及び第2項の規定に基づき事業者がとるべき措置に関して、その適切かつ有効な実施を図るために必要な指針」(令和3年8月20日)等を参考にし)、部門横断的な公益通報対応業務を行う体制及び公益通報者を保護する体制の整備等を通じて、内部公益通報に係る体制を実効的に機能させる。</p>	<p>コード通り実施</p>	
<p>⑭ 個人情報個人の人格尊重の理念の下に慎重に取り扱われるべきものであることに鑑み、個人情報の保護に関する基本方針を策定し、個人情報保護に関する体制を整備し実効的に機能させる。</p>	<p>コード通り実施</p>	
<p>○重点事項3-3-1</p>		
<p>会員法人は、広く社会に対して、継続的かつ時宜に適った情報公開を行うための制度整備をさらに進める。</p>	<p>コード通り実施</p>	<p>2024年度実施予定の法人サイトのリニューアルにより、より迅速かつ適切な情報公開が可能になる。</p>
<p>●実施項目3-3-1</p>		
<p>① いつ、どのような情報を、誰に対して、どのように開示するかなどを規定した情報公開基準またはガイドライン等の諸規程を整備する。</p>	<p>別の方策で実施</p>	<p>規程またはガイドラインとして定めていないが、学校法人及び大学の公共性、社会的責任を意識した上で、積極的な情報の公表、公開に努めている。特にIRの分析成果は「Sophia Facts」として多角的な情報公開を行うなど、ステークホルダーのニーズにも応える形で情報公開に引き続き取り組んで行く。</p>
<p>② 公正かつ透明性の高い情報公開を行うため、開示すべき情報が迅速かつ網羅的に収集され、法令等に則って適時、正確に開示することのできる体制またはシステムを整備する。</p>	<p>コード通り実施</p>	
<p>③ 法令に定められた財務書類等を適切に公開する。</p>	<p>コード通り実施</p>	
<p>④ 中期計画等との連関に留意した事業報告書の作成を通じてその進捗状況を公表する。</p>	<p>コード通り実施</p>	
<p>⑤ 認証評価結果、外部評価結果及び設置計画履行状況等調査結果等、学外からの評価結果等を公表する。</p>	<p>コード通り実施</p>	

⑥ 学校法人が相当割合を出資する事業会社に関する情報を公開する。	コード通り実施	
⑦ 内部統制の実施状況に関して、事業報告書へ記載する等の方法により公表する。	別の方策で実施	毎年度刊行する事業報告書において、「内部統制」という項目のページは設けていないものの、役員の情報に係るページや財務状況公表書類のほか、「監事監査報告書」の公開を行っている。
⑧ 公表した情報に関する外部からの意見を聴取し、反映できる体制を整備する。	コード通り実施	
○重点事項 3-3-2		
会員法人は、情報を公開するに当たり、幅広いステークホルダーの理解が得られるよう、その公開方法の工夫・改善を図る。	コード通り実施	
●実施項目 3-3-2		
① 公開する情報の包括性、体系的、継続性、一貫性及び更新性に留意する。	コード通り実施	
② 公開した情報へのアクセシビリティ及びユーザビリティの向上を図る。	コード通り実施	
③ 情報の受け手にとっての理解容易性、明瞭性及び重要性に留意し、グラフや図表を活用した資料等、幅広いステークホルダーが理解しやすい手段によって情報を公開する。	コード通り実施	
④ とくに収支の均衡状況、将来必要な事業に対する資金の積立状況や資産と負債の状況について、学校法人の信頼性、透明性及び継続性の観点から、理解容易性、明瞭性に留意した情報を公表する。	コード通り実施	
⑤ 学校法人の継続性に重要な疑義が生じる可能性が高い場合には、当該法人に重要な影響を及ぼす傘下法人等の情報を理解容易性、明瞭性に留意して公表する。	コード通り実施	
⑥ 中期計画等との連関に留意した評議員会への事業の実績報告や事業報告書の作成を通じた経営上の課題や成果の明確化、共有化により、経営改革を推進する。	コード通り実施	
⑦ 大学に特有の用語に関してはわかりやすい説明を付すなど、大学関係者以外の幅広いステークホルダーからの理解が得られるよう工夫する。	コード通り実施	

基本原則「4. 継続性の確保」	
<p>会員法人は、それぞれの建学の精神等の基本理念に基づき、その使命を果たすため、大学における教育研究活動の維持、継続並びに発展に努める必要がある。</p>	
遵守状況	遵守
遵守原則の遵守方法に係る説明	
遵守原則4-1 大学運営に係る諸制度の実質化、自律的な大学運営	
<p>会員法人は、私立大学の教育研究活動の継続性を実現するため、大学運営に係る諸制度を実質的に機能させ、自律的な大学運営に努める。</p>	
遵守状況	遵守
エクспレインの種類	一部もしくは全ての重点事項について、別の方策によって達成できている
遵守原則の遵守方法に係る説明	<p>「決裁権限規程」を定め、役職者並びに会議体の役割と権限を明確化した上で大学運営を進めている。役員の善管注意義務徹底、法人・第三者への損害賠償責任明確化するとともに、監事の牽制機能の強化等を通じて、透明性の確保に努めている。また、オンラインの稟議決裁、供覧システムを用いて、迅速な意思決定を可能としている。さらに、定期的にIRに基づく政策の分析を行い、執行状況の確認・改善を図っている。</p>
遵守原則4-2 財政基盤の安定化、経営基盤の強化	
<p>会員法人は、私立大学の教育研究活動の継続性を実現するため、財政基盤の安定化、経営基盤の強化に努める。</p>	
遵守状況	遵守
エクспレインの種類	コードの記載通りの方策により遵守している
遵守原則の遵守方法に係る説明	<p>これまでも本原則は遵守してきたが、本取組について中長期計画「グランド・レイアウト 3.0」においても明記した。</p>

項目	状況	コメント
○重点事項4-1		
<p>会員法人は、大学運営に係る諸制度によるガバナンス機能の向上のため、評議員会、理事会及び監事等の機能の実質化を図る。</p>	<p>別の方策で実施</p>	<p>監事監査において、理事会の実効性評価の観点から審議項目見直しの指摘がなされており、理事会の機能をさらに向上させるため検討を進める予定である。</p>

●実施項目 4-1		
① 政策を策定、管理する責任者（理事長、常務理事、学長をはじめとする理事等）の権限と責任を明確化する。	別の方策で実施	2024年（令和7年）私立学校法改正に伴い、理事の体制や所掌分担を見直し中である。
② 政策を策定、管理する責任者の選任、解任に係る手続き等を明確化する。	コード通り実施	
③ 政策を執行する責任者の権限と責任を明確化する。	コード通り実施	
④ 理事会及び監事、評議員会等のガバナンス機関において、定数、構成等を工夫することにより、機関内及び機関間の有効な相互牽制が働くような仕組みを構築する。	別の方策で実施	2024年（令和7年）私立学校法改正に伴い、理事の体制や所掌分担を見直し中である。
⑤ 理事、理事会及び監事が、理事長や特定の利害関係者から独立して意見を述べられるか、モニタリングに必要な正しい情報を適時、適切に得ているか、理事長、内部監査人等との間で適時、適切に意思疎通が図られているか、理事会及び監事による報告及び指摘事項が適切に取り扱われているかを定期的にチェックする。	コード通り実施	
⑥ 教学組織と法人組織の役割・権限・責任を明確化する。	コード通り実施	
⑦ 政策を策定、管理する責任者（常務理事等）が政策の執行状況を確認できる仕組みをITの活用等により構築する。	コード通り実施	
⑧ 経営情報を正確かつ迅速に教職員等の組織構成員に伝達するためのIT環境を整備するなど、学校法人経営に係る当事者意識を醸成する仕組みを構築する。	コード通り実施	
⑨ 理事会及び常務理事会、評議員会等の議決事項を明確化する。	コード通り実施	
⑩ 理事会、評議員会の開催に当たり、資料を事前に送付するなど、十分な説明や資料を提供し、構成員からの意見を引き出すための議事運営の仕組みを構築する。	コード通り実施	
⑪ 理事、評議員の定数は学校法人の規模を踏まえた数とする。	コード通り実施	

<p>⑫ 学校法人内外の人材のバランスに考慮しつつ、理事及び評議員等の選任時に当該学校法人の役員もしくは教職員でない者（以下、「外部人材*」という）を積極的に登用（理事、評議員については複数名）する。</p> <p>* 私立学校法第 38 条第 6 項を踏まえ、役員が再任される場合において、当該役員がその最初の選任の際現に当該学校法人の役員または職員でなかったとき、その再任の際現に当該学校法人の役員または職員でない者とみなす。</p>	コード通り実施	
<p>⑬ ダイバーシティ推進のため、法人に関係する全ての人の人権を尊重し、個性と能力を十分に発揮できる環境を構築する体制を整備する。</p>	コード通り実施	
<p>⑭ 外部人材に経営情報を正確かつ迅速に伝達し、運営の透明性を確保するとともに、外部人材からの意見聴取の仕組みを整備する。</p>	コード通り実施	
<p>⑮ 理事、監事及び評議員に対する研修機会を提供し、その充実を図る。</p>	コード通り実施	
○重点事項 4-2-1		
<p>会員法人は、私立大学の教育研究活動の継続性を確保するために、学生納付金以外の収入の多様化等によって、財政基盤の安定化及び強化を図る。</p>	コード通り実施	
●実施項目 4-2-1		
<p>① 「寄附を受ける」から「寄附を募る」への転換を図り、寄附金募集事業を推進するための体制を整備する。</p>	コード通り実施	
<p>② 理事長、学長等のトップ層が寄附募集活動の重要性を認識したうえで、業務としての寄附募集の位置づけを明確にし、教職員の寄附募集に係る意識と理解の深化を図る。</p>	コード通り実施	
<p>③ 「大学のミッション、ビジョンの実現に向けた事業」「大学の将来（機能別分化、個性化、多様化やグローバル化）に向けた事業」や「スポーツ・文化振興、地域振興、社会貢献、その他社会のニーズに合致した事業」等の目的を明確化したうえで、寄附者からの共感を得て寄附を募る。</p>	コード通り実施	

④ 補助金を含めた外部資金に係る情報収集、情報共有（学内広報）、研究シーズや成果の情報公開（学外広報）を推進するための体制を整備する。	コード通り実施	
⑤ 補助金を含めた外部資金獲得のための円滑な事業運営や研究推進のための体制を整備する。	コード通り実施	
⑥ 社会・地域連携、産学官民連携、大学間連携や高大連携を通じた外部機関との連携を推進するための体制を整備する。	コード通り実施	
⑦ リスクを考慮した資産の有効活用を行うための規程及び体制を整備する。	コード通り実施	
○重点事項 4-2-2		
会員法人は、幅広いステークホルダーからの信頼性確保及び教育研究活動の継続性確保のために、危機管理体制を拡充する。	コード通り実施	
●実施項目 4-2-2		
① 危機等の発生を未然に防止するためのシステム及び体制を整備する。	コード通り実施	
② 管理運営上、不適切な事案が生じた際には、速やかな公表と再発防止が図られる体制を整備する。	コード通り実施	
③ 危機等の発生に備え、危機管理時の広報業務に係るマニュアル、緊急時の対応マニュアル等、危機発生時に必要となる各種マニュアルを整備し、教職員、学生等に広く周知するとともに、教職員、学生等への研修等を実施する。	コード通り実施	
④ 危機等が発生した場合、あらかじめ整備した緊急時対応マニュアル等に基づき対応する。	コード通り実施	
⑤ 情報システムへのアクセス権限を厳格・適切に設定する。	コード通り実施	
⑥ 情報セキュリティ体制の適切性及び運用状況を検証する。	コード通り実施	
⑦ ハラスメントを防止するための必要な措置を講じる。	コード通り実施	